言までなりて、右大将かけたまへりき。この母君は、きはめたる和歌の上手にて 側室は大が来るのとまつ。 <u>~€~~~~~</u>~ おはしければ、この殿(衆家)の運はせだまひげる頃どの事、歌など書きあつめて、 ないなかまけれずためて、「しまり」中で内を称が、既のおはしましたりけるに、門かげろふの日記となづけて世にひろめたまへり。既のおはしましたりけるに、門 「おろくしすっていなかししない「開けた、とはきってない前はにきた、たかもしか引きおそくあけたれば、度々御消息いひ入れさせたまふに、女君、 なげきつつひとりぬる夜のあくるまはいかに久しきものとがはしる(百人一首) り多り事業 いと興ありとおぼしめして、 まるらいり久ろの在れかけててる げにやげに冬の夜ならぬ害多の戸もおそくあくるは苦しかりけり 〔注〕○倫寧――藤原倫寧。娘には他にも菅原孝標の妻(『更級日記』作者の母)がいる。 ○かけたまへりき――兼任なさっていた。 ○まきの戸――真木(良質の木材)でできた II ° 【語彙・文法】(○=語彙・●=文法・☆=常識。ただし重なるところも) ●きこゆ ○おそく ☆消息 ○げに 【窓ら】 京線部ー「道網ときこえて」の敬語の種類・誰から誰への敬意かを答えよ。 りこやりきゅう というりの人か」と申してけて - ※ 引って るを削けった人の (気のるの (法師 ) そり とり とり ② 点線部とを品詞分解して現代語訳せよ。 形り申 形匀用三锅床 そく一あくる「は」苦しかり」けり ~の本がの井は

→ 至幸は時程、(身合が古門く記録が存す)
語(森本担当分)、「「大鏡」を読む」、第十八回(

京的一个

**予側室に名が残っていけい** 

(九月二十日)

はははし君なり。道綱ときこえて、大納

太上前侯 丙基

[7] 回生禹一国語(森太坦当分)

「二郎君、陸奥守倫寧のぬしの女の腹戸

【太政大臣兼家】矧

【参考】『蜻蛉日記』上巻・天膂九年(九五五)十月

これより夕さりつかた、「うちにのがるまじかりけり」とて出づるに、心えで、人をつけて

見すれば、「町の小路なるそこそこになむ止まりたまひぬる」とて来たり。

- さればよと、いみじう心うしと思へども、いはむやうも知らであるほどに、土田日ばかり ありて、暁方に、門をたたく時あり。さなめりと思ふに、憂くてあけさせねば、例の家とお

ぼしき所にものしたり。つとめて、なほもあらじと思ひて、

嘆きつつひとり寝る疫の明くるまはいかに久しきものとかは知る。

と、例よりはひきつくろひて書きて、うつろひたる第にさしたり。

かへりごと、「謂くるまでも試みむとしつれど、とみなる召し使ひの来あひたりつればなむ。

いとことわりなりつるは。 げにやげに冬の夜ならぬまきの戸もおそくあくるはわびしかりけり!

さてもいとあやしかりつるほどに、ことなしびたる。

〔注〕○天暦九年──兼家二十七歳・道網母二十歳くらい・道網一歳。 ○うちにのがるまじか 南北の通りの一つ。現在の新町通りにあたる。 ○さればよ――やっぱり思った通りだ。 ○なほもあらじ――そのままにはしておくまい。 ○例よりはひきつくろひて----いつも よりは改まって。 ○うつろひたる第―― 靇にあたって花の色が変わった菊。 ○ことな

しびたり――何事もなかったかのように振る舞っている。

【女学史】 女鴻日記

=女性の手になる(゠ひらがなで書かれた)、自身の体験によるノンフィクション。 一工佐日記 | ……作者は男性(紀貫之)。最初の仮名日記。紀行文。一○世紀前半に成立。

蠕蛉口記 │ ……作者は藤原兼家(道長の父)の妾(劍妻)。 │○世紀後半。

B唇状トが95----作者と親王たちとの恋を描いた歌物語的作品。一一世紀初め。

據式 ºニュュòz ·····作者は遺長の娘に仕えた女房。記録+隨筆的。一一世紀初め。

療受験臭債負記 −−−−作者は堀河天皇に仕えた女房。亡き天皇を追憶する。一二世紀初め。

十二六段自弘 -----作者は阿仏尼。所領をめぐる訴訟のため鎌倉に下る。「三世紀末。

|がに上……作者は後深草院二条。院や男たちの欲に翻弄される。一四世紀初め。

## 【文法基酸練】希望・比況の助動詞

のなってきばい

	未然形	東用形	終出形	連体形	口然形	<b>德华形</b>	活用の對
####.J	(4m thuy)	するほっく	## <u>#</u> #>	81,-10 1-10 1	4- 500.50	Q.	シリ活用
	まる伊フをひ	まけいかり	•	きゅうかん	w	No.	× .
ポコ	(444)	₩V.	<u> </u>	41× 44×	+45		C 46 Œ
	# \$	را يو		<u> </u>	,	0	
ت.بدزژ	(テレンシン)	<sup>7</sup> n 30 ✓	بر سر رة	~1) >- 40V	0	. 0	× 1 % ==
(下報語)	+4	,	_				· 1-10/2
	—±3 —₩	<u>—</u> ∓:∞		ーとき	一かや		

ごとし…… ①比況(プリプリウザ) ②何、元(ゲナゴリナー遺味) まほし・たし…… ①希望(・・ケー)

接続 まほし……活用語の [末 紙]形

たし……活用語の「海岸円 ] 形

ごとし……体言・活用語の「連 体 」形・助詞 [ の・ が ]

\*「ごとし」は語幹「ごと」だけでも使われる。また、形容詞型の「ごとくなり」「やうなり」

も「ごとし」と同様に使われる。

り機雑な洛用はつでき

わいせしいごとの国うろけしかせた一番でする人間の年を留け

【製代語訳】

みなさったが、女君は(こう歌を詠んできた)、ったときに、〈道綱母は〉門をなかなか開けなかったので、〈兼家は〉何度も何度も案内を頼どを書き集めて、『蜻蛉の日記』と名付けて世に広めなさった。(あるとき、) 殿がいらっしゃ歌の達人でいらっしゃったので、この殿(兼家)がお通いになっていた頃の出来事、和歌なげて、大納言にまでなって、右大将を兼ねなさった。この(道綱の)母君は、この上ない和「〈兼家の〉ご次男は、陸奥守藤原倫寧殿の娘の所生でいらっしゃる方である。道綱と申し上

知っていますか(知らないでしょう? 門を『開ける』のも待てないあなたは)嘆きながらひとりで寝る夜が『明ける』までの時間はどれほど久しいものか、あなたはする、され ガネロ

(兼家は) とても面白いとお思いになって、

み『開け』てくれないのは苦しいものだったんだなあ本当に本当に、冬の夜ならぬ槙の戸も、夜がなかなか『明け』ないように、戸をなかな

(とお返しになった。)

## 【参参の誤】

家の車が)お止まりになりました」と言って帰ってきた。出ていくので、腑に落ちず、人に後をつけて見に行かせると、「町の小路にあるそこそこに(兼この後の夕暮れごろ、(兼家が)「宮中で避けられない用事があるのだった」などといって

れる所へ行った。翌朝、そのままほうっておくわけにもいかないと思って、う(兼家の訪れ)であるようだとは思うが、不快で開けさせなかったところ、例の家と思わもわからないでいるうちに、二三日ほどして、明け方ごろに、門をたたくことがあった。そやっぱり思ったとおりだと、ひどく不愉快だと思うけれど、どう言ってやったらいいのか

嘆きながらひとりで寝る夜が『明ける』までの時間はどれほど久しいものか、あなたは

知っていますか(知らないでしょう? 門を『開ける』のも待てないあなたは)

と、いつもよりは改まった字で書いて、紫に変色した菊にさして送った。

ほるのうだというのというと言う。 用を知らせるお召しの使いがたまたま来てしまったので(そちらへ行ったのだ)。(あなたが(兼家の)返事。「(あなたが門を)開けてくれるまで試してみようとしたのだけれど、急

本当に本当に、冬の夜ならぬ槙の戸も、夜がなかなか『明け』ないように、戸をなかな怒るのも)とてももっともなことだね。

か「開け」てくれないのはつらいものだったんだねえ」

それにしても、(兼家は)とても不思議なくらい、何事もなかったようにしている。

☆『大鏡』『曉給日記』でのこのエピソードには、どのような違いがあるか?

【さらに参考】工藤重矩『原氏物語の結婚』(中公新書・二○一二年)

(正妻腹の子(矯子)とそれ以外の女性との子(庶子)とでは、扱いの違いがあった)

道長は六年であるのに対して、道網は十一年を要している。このあたりに差が出ているといってはほとんどない。ただし、次の従五位上に昇るまでに要した年数が、道隆は六年、道兼は八年、道欄は叙位年齢が十六歳で、時姫所生の男子に比べれば一年遅れているが、スタートに嫡庶の差給)を叙されている。藤原倫寧の娘所生の道獺(九五五年生)も従五位下(冷泉院御給)である。年生)、道長(九六六年生)はいずれも十五歳で従五位下(道隆は中宮御給、他の二人は冷泉院御津家の男子、すなわち道長の兄弟の場合は、正妻時姫所生の道陸(九五三年生)、道兼(九六一

よいかもしれない。 ( 如 ~ 妃 頁)

